

よりどころ – 緑に包まれたコミュニティ広場 –

1180163 三好 奈津香

指導教員 吉田 晋

高知工科大学 システム工学群 建築・都市デザイン専攻

1. はじめに

私には腎不全により長年入院していた祖父がいた。透析を始めてからは一日中寝たきりになり、みるみるうちに痩せ、イライラしたり弱音を吐くようになった。「このまま生きていても楽しいことがない。それなら早く楽になりたい」と言っていたこともあり、私は悲しくてやるせない気持ちになった。これは透析のストレスによって生じる「不安と抑うつ」からだと考えられ、同じように身体だけでなく心にも大きな負担を感じている患者さんがたくさんいることを知った。

2. 敷地

対象敷地は高知県高知市比島町にある比島交通公園。高知駅から徒歩15分の場所にあり、目の前には祖父が入院していた島津病院がある。

現在の園内は道路が張り巡らされていて、疑似的な交通環境が再現されている。また、敷地面積は広めに設けられることが特徴的で、修景も整えられており、植樹帯により季節を感じることでできる空間である。

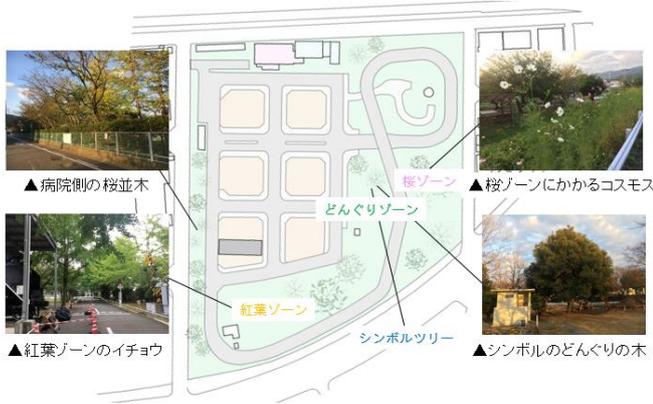


図1 敷地の植栽

3. 現状

現在の公園は四方をフェンスと木々に覆われていて、大人がひとりで入るには勇気がいる。段差や凸凹した道は高齢者や小さい子供にとって危険だ。今の公園は無意識に利用者を制限していると感じた。また、こどもを取り巻く環境が変化し、日常生活や学校教育で交通ルールを学ぶ場があるため、「交通公園」として存続し続ける意義がなくなっている。

4. 提案

4-1. 方針

方針としては、今あるゴーカートのための道路や遊具をなくし、緑豊かで広い敷地をもつこの場所を地域の人々と患者さんが気軽に利用できるコミュニティ広場の計画を行う。地域の人々が気軽に立ち寄り、生活に「心地良い」「楽しい」と感じられる時間や場所、人、活動を提案する。

4-2. コンセプト

屋根をなだらかな丘にし、屋根を緑化して植物を育てることで、「緑に包まれる広場」として設計する。緑地化することで、人々のストレスを軽減させ、くつろぎや安心感を覚える空間づくりを行う。



図2 イメージ模型

5. 計画

5-1. ゾーニング

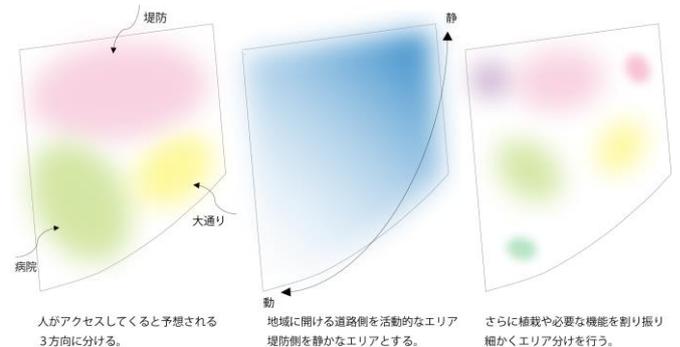


図3 ゾーニング図

5-2.全体の構成

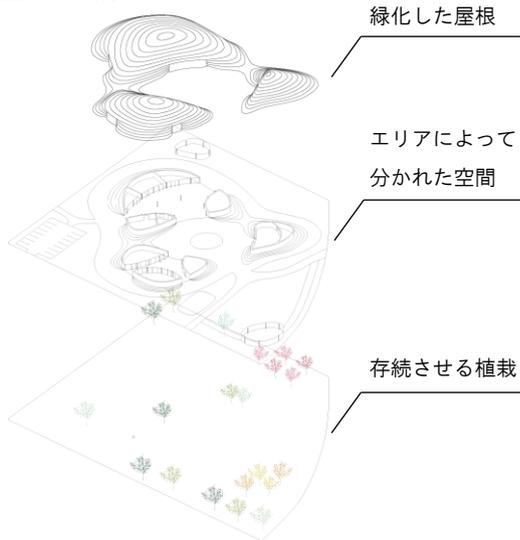


図4 構成図

5-3.平面図・断面図

ゾーニングにより出来た空間は5つのエリアで構成される。敷地北側の静かなエリアに学びの丘と休息の森、病院に近い西側に交流の丘、大通りにかかる南側に創作の丘と活動の森を提案する。

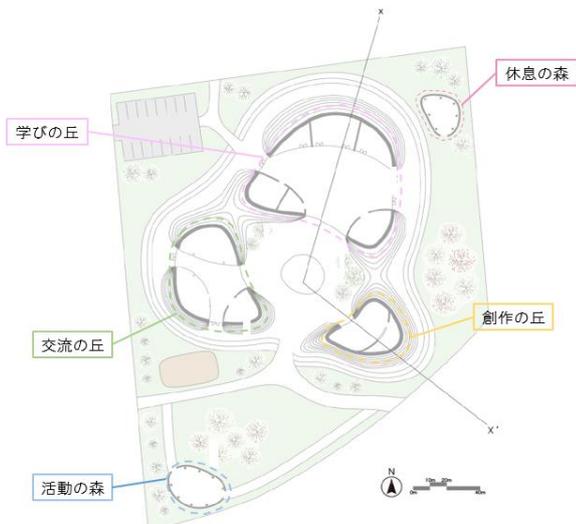


図5 平面図

内部空間の高さは一番低い場所でも2mを確保し、屋根の勾配は1/5~1/8とする。これは、走る、跳ぶなどの軽い運動に適しており、子供たちが跳んだり、走ったり、座って広場を眺めたり出来る。



図6 断面図

6. エリアと機能



図7 アクソメ図

6-1. 学びの丘

- ・大きな図書館
たくさんの本を自分の好きな場所で読むことが出来る。
- ・みんなの学習室
視聴覚室で映像を見たり、PCルームで情報収集が可能。

6-2. 交流の丘

- ・オープンキッチン
畑でとれた野菜を使って、お料理教室を開催する。
- ・ゆったりした和室
茶道などのサークル活動をしたり、小さな子供を遊ばせる子育て支援としても機能する。

6-3. 創作の丘

- ・小さなアトリエ
工房で作ったものを展示し、日々の頑張りを地域の人に見てもらえる。
- ・防音室
ダンスや演奏等、住民や学生が様々な活動を展開する。

6-4. 休息の森と活動の森

- ・休憩所
堤防を散歩している人が休憩するために訪れる。
- ・多目的ホール
緑で囲まれた空間でリラックスして運動出来る。

7. まとめ

丘の中に様々な空間をつくることでお気に入りの場所を見つけたり、夢中になることが出来ることで患者さんにとって「心のよりどころ」地域の人にとって「気軽に立ち寄れるところ」となった。



図8 模型写真